

平成14年度見学会に参加して

佐藤千佳*

わたしは今回初めて見学会に参加させていただきましたが、ヘルメットと懐中電灯持参とは一体何をやるのだろうと不安な気持ちで当日を迎えました。しかし当日の朝、新潟駅南口には応用地質研究会の例会（のあとの懇親会）でお会いした方々が参加されており、またバスの座席も隣がやさしい新潟大学の早川先生でしたので、リラックスさせていただきました。

初めに見学した南長岡鉱山では、二酸化炭素の地中圧入実証試験の試験予定地をみながらこの実験プロジェクトのご説明をいただきました。このプロジェクトは長岡市の帝国石油（株）鉱区内で深度約1.1kmの地中帯水層に二酸化炭素を送り込み貯留するというものです。このようなことが実際にできるということにまず驚きを感じました。二酸化炭素をおくおくと帯水層に注入したとしてもすぐに地上に戻って来てしまうのではと疑問を持ちましたが、帯水層の上部のキャップロックによりふたがされるため戻らないとのこと、なるほどと感心しました。みなさんもおっしゃっていましたが、ぜひ実際に試験が行われているところをみてみたいものです。10月7日の日本経済新聞にも二酸化炭素の処理技術として圧入実験が取り上げられておりました。蛇足ですが、もし帯水層が高温になった場合、二酸化炭素が吹き出して大爆発したりしないのかなどと余計なことが気になってしまいました。

次に見学した中山隧道は、雪深い山古志村の手掘り隧道であり、見学前はもっとモグラの穴のようなトンネルを想像しておりました。しかし実際は高さ3m、幅2mあまりと想像よりかなり大きく、これだけのものが手掘りであるということに衝撃を受けました。70年もの昔に正確に測量をし、全長約1kmもの隧道を手掘りで掘り進んでいった小松倉地区の方々の努力には本当に脱帽します。そして平成10年に中山トンネルが完成するまでの約65年間、この隧道が実際に生活道路として使われていたということにはさらに驚きを感じました。実際に歩いてみると隧道の中は20℃以下と涼しく、また夏にぜひ遊びに来たいと思いました。しかし隧道は暗く長く湿度も高く、また地下水がぼたぼたと垂れており、一人で歩いていたときはかなり心細く感じたのですが、他の参加者の方が一緒に歩いてくださり助かりました。

他にも小千谷そばの昼食や通り過ぎた道光高原、動けなくなったバス、応用地質研究会ならではの500ml缶ビール、山岸さんのクイズ、結局参加者は女性1人だったこと、バスガイドさんがちょっと年上だったこと、まだまだいろいろなことがありましたが、とても有益な1日を過ごすことができました。他の参加者のみなさま、そして幹事のみなさまに感謝いたします。

*財団法人新潟県環境衛生研究所